釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）９月22日発行　VOL 25

変化し進化する

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

19日（金）に音楽祭が行われました。平日の開催にもかかわらず、多くの保護者、地域の皆さんに御来校いただき生徒たちの合唱を鑑賞していただきました。１学期中に生徒会書記局のリーダーシップの下、全校生徒からアイディアを募りスローガン「一心響音～認め合いで一つに繋がる心と合唱～」が決定しました。そして、夏季休業明けから音楽祭に向けた合唱練習が始まりました。縦割り合唱では３年生が、学年合唱では合唱委員が練習を引っ張ってくれました。最初の頃は、１回の練習が終わる度にパートごとの反省会が行われていました。後半になると、全体での反省会が行われていましたが、必ずスローガンや音楽祭のねらいがテーマになっていました。最後までこのスタンスが貫かれていました。音楽祭当日は、そのスタンスが結実した合唱が披露されました。保護者、地域の皆さんには「北中の現在地」を感じていただけたのではないでしょうか。生徒会書記局と３年生が「自分たちの学校は自分たちで創る」という姿勢を示してくれました。その姿勢を本校のNo.2の２年生が引継ぎ、また新しい北中学校を創ってくれると思います。そんな先輩たちの姿を目の当たりにした１年生も学校づくりに意欲をもってくれたと思います。保護者、地域の皆さんには、生徒たちの活躍を見守るとともに、今後とも本校の教育活動への御理解・御協力をよろしくお願いします。

さて、今回の音楽祭において、生徒たちは教師の力を借りずに各種の取組を進めていました。まさに「自走」していました。そんな生徒たちにとって、私たち教師はどんな存在でなければならないのでしょうか。その一つの答えとして、経済協力開発機構（OECD）が「ティーチング・コンパス（教師の羅針盤）」を提唱しています。これは変化の激しい現代社会において教師が目指すべき新たな役割と資質・能力を示す指針です。教師の役割を知識伝達者から未来の「共同創造者」へと変革し、生徒の主体的な学びを育むパートナーになることを目指しています。その中心には、教師自身のプロフェッショナルとしての「軸」となる「アンカー（錨）」があり、「専門家としての自分らしさ（自身の専門性や仕事の目的意識、教師としてのアイデンティティ）」、「安心して居られる仲間やコミュニティ（同僚や仲間とのつながり、安心して相談できる人間関係やコミュニティ）」、「常に学び成長し続ける向上心（常に学び続け、成長しようとする意欲や向上心）」の３つの柱で構成されています。

知識を一方的に教える存在から、生徒とともに未来を築くパートナーへと進化すること、生徒が自らの学びを主体的にコントロールし、未来を「共同創造」していく力を育むこと、知識や技術だけではなく、変化する社会に対応するための教師自身の価値観や態度、資質・能力を重視することなどが私たち教師に求められているのだと思います。音楽祭に取り組む生徒たち同様に、私たち教師も変化し進化していく必要があるのだと思います。